

| 学期 | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|-------------|----|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 4 | 0章 整数の性質 | ○約数、倍数、素数を学び、素因数分解ができる。 |
| | | 1章 正負の数 | ○負の数の必要性とよさを知り、数を負の数にまで広げ、数の概念の理解が一層深められる。 |
| | 5 | 1 正負の数 | |
| | | 2 加法と減法 | ○正の数と負の数について、四則計算ができる。 |
| 2 | 6 | 3 乗法と除法 | ○正の数と負の数についても、加法、乗法に関して交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことが分かる。 |
| | | 4 正負の数の利用 | |
| | 7 | 2章 文字と式 | ○文字を用いることの意義を理解する。文字式の意味をよみとったりできる。 |
| | | 1 文字を使った式 | ○文字を用いた式における乗法、除法の表し方を理解する。 |
| 3 | 9 | 2 文字式の計算 | ○ $a \cdot b$ や $a + b$ などの表現は、操作の方法を表しているとともに、操作の結果をも表しているという見方ができる。 |
| | | 3 文字式の利用 | ○一種類の文字についての一次式の加法、減法の計算ができる。 |
| | 10 | 3章 方程式 | ○方程式は、変数を含んだ相等についての条件を表した等式であるとみることができる。 |
| | | 1 方程式とその解き方 | ○等式の性質を見いだすことができる。 |
| 3 | 11 | 2 1次方程式の利用 | ○等式の性質を根拠として、式の変形を進めていくという数学的な考え方を伸ばす。 |
| | | 4章 比例と反比例 | ○一元一次方程式について、解法を一般的な手順としてまとめ、能率よく解くことができる。 |
| | 12 | 1 関数と比例・反比例 | ○変域を負の数にまで広げてとらえられるようにする。 |
| | | 2 比例の性質と調べ方 | ○文字を用いて表された式を通して、比例、反比を理解する。 |
| 3 | 1 | 3 反比例の性質と調べ方 | ○正の数と負の数にまで広げた数を用いて、平面上の点の位置を二つの数の組で表すことができる。 |
| | | 4 比例と反比例の利用 | ○数量の関係を表、式、グラフを用いて表し、変化や対応の特徴をとらえることができる。 |
| | 2 | 1 比例と反比例の利用 | ○比例の関係を表す式やグラフの特徴が分かる。 |
| | | 2 比例と反比例の利用 | ○反比例の関係を表す式の特徴や、グラフが滑らかな曲線になることが分かる。 |
| 3 | 2 | 3 比例と反比例の利用 | ○比例、反比例を具体的な事象や場面とのかかわりの中で理解できる。 |
| | | 5章 平面図形 | ○円の一部になっているおうぎ形を知り、同一の円の弧の長さがその中心角の大きさに比例することを理解し、おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。 |
| | 3 | 3 おうぎ形 | |
| 6章 空間図形 | | ○錐体の体積が、底面積と高さが等しい柱体の体積の三分の一であることを、確認できる。 | |
| 3 立体の体積と表面積 | | | |
| 3 | 3 | 7章 テータの分析と活用 | ○ヒストグラムや代表値の必要性をと意味を理解できる。 |
| | | 1 テータの整理と分析 | ○ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ、説明できる。 |
| | | 2 データの活用 | |
| | | 3 ことがらの起こりやすさ | |

| 学期 | 月 | 学習内容 | 学習のねらい |
|----|----|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 4 | 5章 平面図形 1 図形の移動 2 基本の作図 | ○対象な図形の性質を明確にすることで、その美しさを知り、有効性に気付いて活用できる。 |
| | 5 | | ○定規、コンパスを用いて、角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図が正しくできる。 |
| | 6 | | ○円の対称性を利用し、円周上の点における接線の作図の方法が分かる。 |
| | 7 | | ○基本的な作図について、その方法を図形の対称性などに基づいて考察することができる。 |
| 2 | 9 | 6章 空間図形 1 いろいろな立体 2 立体の見方と調べ方 3 立体の体積と表面積 | ○直線や平面の決定条件が分かる。 |
| | 10 | | ○空間における直線や平面の・直線と直線の位置関係について、二つの直線が交わる場合と交わらない場合に分けて考察し、「交わる」「平行」「ねじれの位置」の関係があることが分かる。 |
| | 11 | | ○面積・直線と平面の位置関係について、直線が「平面に含まれる」「平面に交わる」「平面と平行」の場合があることが分かる。また、直線が平面に垂直である場合について理解する。 |
| | 12 | | ○平面と平面との位置関係について「交わる」「交わらない」場合があることが分かり、二つの平面の交わりは直線になることが分かる。 |
| 3 | 1 | | ○線分の運動によって空間における面が構成されるという見方ができる。 |
| | 2 | | ○平面図形の運動によって立体が構成されるという見方ができる。 |
| | 3 | | ○見取図や展開図を利用し、空間図形のもつ性質を考え、理解を深めることができる。 ○柱体の体積を底面積と高さの積として求めることができる。 ○表面積を、展開図などから求めることができる。 |

| 評価について | |
|---------------|----------------------------|
| 評価の観点 | 評価の方法 |
| 知識・技能 | 定期テスト、小テスト、ワークシートなど |
| 思考・判断・表現 | 定期テスト、小テスト、ワークシートなど |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 定期テスト、授業への取り組み、ワークシート、課題など |